



あなたの声を市政に 地区懇談会

問い合わせ 自治振興課 ☎2142

自治会連合会は、住みやすい地域づくりを実現するため、まちづくりについて、市長と直接話し合う「地区懇談会」を開催しています。
平成25年度に開催した9地区のうち、今月は3地区の内容（一部抜粋）を紹介いたします。

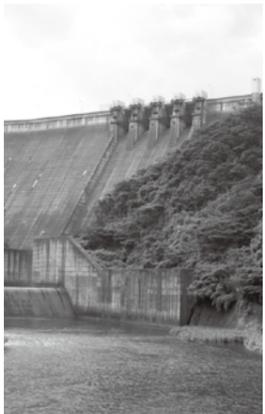
また、平成24年度から、各地区の身近な課題やまちづくりについて、参加者が自由に意見を交換する新たな試みをしました。意見交換は、市の若手職員がファシリテーター（進行役）として参加し、各地区とも活発な意見が交わされました。

本町地区（平成25年7月29日 本町2丁目集会所）

弥栄ダムが決壊した場合の 対策について

問

弥栄ダムが決壊した場合の対応策を検討していますか。検討していれば、その内容を教えてください。



答

弥栄ダムは、国土交通省が管理する重力式コンクリートダムです。管理している国土交通省弥栄ダム管理所によると、このダムは、コンクリートの自重によって水圧に耐えることを特徴とする、膨大なコンクリートを使用した分厚く頑丈なものであるため、ダム本体の決壊は想定していません。そのため、市として、弥栄ダムが決壊した場合の対応策は検討していません。

なお、弥栄ダムは洪水調節を目的としたダムでもありますので、大雨により小瀬川が氾濫し、下流域に災害の発生が予想されるようなケースにおいては、これを未然に防ぐため、水量の調節をしています。

木野地区（平成25年8月22日 木野1丁目公民館）

巡回バスについて

問

木野地区から元町・白石・新町を経由して大竹駅へ行くバスの新設は、どのようなようになっているのでしょうか。

答

市では平成21年3月に「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、地域の交通については本来に必要なとされている人たちと市が一緒になって、必要なルート、負担できる料金、ふさわしい車両について考えるという、「住民自らが守り育てる公共交通」として取り組むこととしています。地域住民が計画の策定段階から参画することで、自らが決めた運行計画に責任と愛着を持っていただくことが可能になり、その結果、公共交通の利用が促進され、継続することができると考えています。

現在、市内には支線交通として「三ツ石地区乗合タクシー」「ひまわりタクシー（玖波七、八丁目）」「湯舟のりあいタクシー」「栄ぐるりんバス」があります。これらは市が計画して運行を開始したものではありません。それぞれの地域で住民による公共交

弥栄ダムの洪水調節機能により、洪水被害が低減していると考えていますが、昨今、全国各地で集中豪雨が発生しています。突然の大雨によって、土砂崩れや浸水被害が発生することもありますので、普段から気象情報に注意して、避難場所や避難ルートの確認をお願いいたします。

プラスチックごみの分別について

問

食べ残しの付着した袋や薬・錠剤などの硬い銀紙のようなものもプラスチックごみに入れてよいのかなど、より細かく具体的に周知してほしい。また、プラスチックごみを回収した後、どのように処理しているのか教えてください。

答

「トレー・その他のプラスチック製容器包装の日」に出されるごみは、基本的には資源として回収し、リサイクルを目的とするものです。

したがって、汚れや食べ残しなどが付着したものは、水洗い程度で落ちるものであれば落としていただき、「トレー・その他のプラスチック製容器包装の日」に出し、リサイクルへの協力をお願いします。

ただし、汚れの落ちないものや薬・錠剤の入っていたものなどは、プラスチックへのリサイクルが困難なため、「もやすごみ」として分別してください。これらのごみは、リサイクルセンター内の処理施設において、RDFという固形燃料に加工しています。

市が回収したプラスチックごみは委託業者が引き取ったうえで選別し、プラスチックとして再利用できるものは洗浄・破碎したうえで加熱・成形し、プラスチックの原料となるペレットに加工されます。

ただし、材質がリサイクルに適さないものや汚れが落ちないプラスチックごみは、木くずなどを混入して固形燃料として加工したり、1メートル四角に圧縮梱包して、燃料として使用しています。

まちづくりについての意見交換の場で交わされた主な内容

ごみの減量化について

- 市は、自治会への配付物をよく考えるべきである。配付物を減らさないで、ごみは減らない。
- ごみステーションに仕分けされていないアルミ缶が出されているのを見かける。もう少し住民が気を付けるべきである。
- 生ごみ処理機の助成金が市から出ている。購入して利用している。



元町地区（平成25年8月26日 コミュニティサロン元町）

大雨時のトイレの使用について

問

大雨時にトイレの汚水が逆流し、便器からオーバーフローする事態となります。この間、トイレの使用ができないので、一日も早く、この事態を解消してほしい。

答

ご指摘のとおり、近年、大雨のときにトイレの使用が困難になったとの報告が増えており、大変ご迷惑をおかけし、申し訳ありません。原因は、昨今の豪雨により、側溝からあふれた多量の雨水が下水道管に浸入して満水状態となり、その結果、管内の空

気が押し上げられ、各家庭のトイレの便器で排気されたものと思われる。

上下水道局では、平成24年度に取付管のカメラ調査を行い、一部で雨水浸入を確認しましたので、数ヶ所で管を補修しています。

また、あわせて、下水道本管が土砂で一部閉塞していることも確認できましたので、平成25年5月に小田輪業からコミサロの間の土砂を浚渫し、本管の流れを回復させました。

平成25年度は更に、小田輪業から下流の部分や光明寺から丸久の間を調査し、雨水浸入があれば管を補修し、土砂が堆積していれば順次浚渫したいと考えています。

抜本的な解決にはならないかもしれませんが、少しずつではあります。ご理解をお願いします。

まちづくりについての意見交換の場で交わされた主な内容

元町地区のまちづくりについて

- 盆踊りは、大竹全体が一つにならないと後世に受け継がれないのではないかと。
- 大竹音頭などはぜひ受け継いでほしい。
- 昔は盆に小学校で盆踊り大会をやっていた。大竹地区だけでも復活させてはどうか。